

19日 火曜

Ⅱコリント

7:2 私たちに対して心を開いてください。私たちは、だれにも不正をしたことがなく、だれをもそなったことがなく、だれからも利をむさぼったことがありません。

7:3 責めるためにこう言うではありません。前にも言ったように、あなたがたは、私たちとともに死に、ともに生きるために、私たちの心のうちにあるのです。

7:4 私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとっています。私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています。

7:5 マケドニヤに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまの苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。

7:6 しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました。

7:7 ただテトスが来たことばかりでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、私たちは慰められたのです。あなたがたが私を慕っていること、嘆き悲しんでいること、また私に対して熱意を持っていてくれることを知らされて、私はますます喜びにあふれました。

パウロはコリント教会の人々からは援助をなるべく受けたくないと思っていたようです。彼らにその思いが足りなかつたこと、また彼らが高慢にならないため、特に彼らの信仰がみこころにかなつていなかつたので、彼らが「私たちはこれでよい。パウロ先生を支えている。」などと思い違いをしてはならないと考えたからでしょう。

それでもパウロは「あなたがたに対する信頼は大



きい」と明言しています。コリント教会の人々をパウロは長い目で見ているからです。これこそが本当の寛容ということです。私たちも同様です。神様から寛容に、そして期待を込めて見られていることを忘れないようにしましょう。

パウロの願いはコリント教会の人々が主のみこころに歩むことでした。それこそが幸いであり、平和な人生であり、苦難の中に勝利を勝ち取る道だからです。人を永遠に幸せにできる道を私たちは知っているですから、幸いを他の人に与えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

